

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある日、王さまはこじきのようなうすをして、ひとりで町へやってゆきました。

町には小さな靴屋がいつけんあって、おじいさんがせつせと靴をつくっておりました。

王さまは靴屋の店にはいって、

「これこれ、じいや、そのほうはなんとという名まえか。」

とたずねました。

靴屋のじいさんは、そのかたが王さまであるとは知りませんでしたので、

「ひとにものをきくなら、もつとていねいにいうものだよ。」

と、つつけんどんにいつて、とんとんと仕事をしていました。

(略)

王さまは、なるほどじぶんがまちがっていた、と思つて、こんどはやさしく、

「おまえの名まえを教えておくれ。」とたのみました。

「わしの名まえは、マギステルだ。」とじいさんは、①やつと名まえを教えました。

そこで王さまは、

「マギステルのじいさん、ないしょのはなしたが、おまえはこの国の王さまはばかやろうだとおもわないか。」

とたずねました。

「おもわないよ。」とマギステルじいさんはこたえました。

(略)

「もしおまえが、王さまはこゆびのさきほどばかだといつたら、わしはこれをするよ。だれもほかにきいてやしないから、だいじょうぶだよ。」

と王さまは、金の時計をポケットから出して、じいさんのひぎにのせました。

「この国の王さまがばかだといえばこれをくれるのかい。」

とじいさんは、金づちをもった手をわきにたれて、ひぎの上の時計をみました。

「うん、小さい声で、ほんのひとくちいえばあげるよ。」

と王さまは手をもみあわせながらいいました。

するとじいさんは、やにわにその時計をひつつかんで床のうえにたたきつけました。

「さつさと出てうせろ。ぐずぐずしているとぶちころしてしまうぞ。不忠者め

が。この国の王さまほどごりつばなおかたが、世界中にまたとあるかッ。」

そして、もつていた金づちをふりあげました。

王さまは靴屋の店からとびだしました。とびだすとき、ひおいの棒にうつんと頭をぶつけて、大きなこぶをつくりました。

けれど王さまは、②こころを花のようにあかるくして、

「わしの人民はよい人民だ。わしの人民はよい人民だ。」

とくりかえしながら、宮殿のほうへかえつてゆきました。

問1 線部①やつと名前を教えました。とありますが、王様は、おじいさんにどのようになら、名前を教えられましたか。

たのんだ。

問2 線部②こころを花のようにあかるくしてとは、王さまのどんな気持ちを表していますか。

ア 靴屋が王さまのいうとおりにしたからうれしい。

イ 靴屋が王さまをこりつばなおかたといつたからうれしい。

い。

ウ 靴屋が王さまを怒つたことで頭をぶつけたからかなしい。

い。

エ 靴屋が最後まで、王さまの言うとおりにしなかったからかなしい。